

令和 6 年 5 月 20 日現在

機関番号：12608

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K12987

研究課題名(和文) 歌からたどる「からゆきさん」の物語

研究課題名(英文) Tracing Musical Stories of Karayuki-san

研究代表者

穴倉 正也 (Shishikura, Masaya)

東京工業大学・リベラルアーツ研究教育院・研究員

研究者番号：90781766

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：研究成果としては、まず多くの国際学会での発表が挙げられる。本研究を始めた2019年以降、International Council for Traditions of Music and Danceでの4度の発表を始め、多くの学会で本研究に関する発表を行なった。また、本研究に関連して台南国立芸術大学、台湾国立師範大学、熊本大学を始め多くの研究機関から招待講演の依頼を受け、発表を行なった。また、本研究に関しての学術出版などもいくつか行なった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、娼婦として扱われることの多い「からゆきさん」の音楽的側面を描くことで、画期的な研究だと考えられる。これまでの「からゆきさん」研究や著作、芸術作品などでは、どうしてもこれらの女性をマイナスなイメージで捉えることが多かった。本研究は、もちろんそのような「からゆきさん」の側面を否定するわけではないが、「からゆきさん」をより大きなイメージで捉えることの重要性を主張できたと思う。コロナの影響で、本研究は大きな困難に直面したが、これを次のTransborder Humanityの研究へと繋げたことは大きな成果であった。

研究成果の概要(英文)：I have presented papers at several international conferences/symposiums organized by International Council for Traditions of Music and Dance. I also gave several invited lectures at Tainan National University of the Arts, Taiwan National Normal University, Kumamoto University, and more. My publications related to this projects include "Nostalgia in Motion: Transition and Transformation of a Japanese Enka Song in East and Southeast Asia." "Lullaby, Travel, Nostalgia: Intersectional Soundscapes of Migrant Prostitutes in Southeast Asia."

研究分野：Ethnomusicology

キーワード：Karayuki-san

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、より大きな「旅をする音楽」の一つのテーマとして始められたものだったが、島原や天草でのフィールドワークを行ううちに、「からゆきさん」という存在がとても大きくなっていった。そこで、この大きな研究テーマから「からゆきさん」関連の研究をある程度独立させ、「からゆきさん」に焦点を絞って始めたのが、本研究の研究開始当初の背景である。

「からゆきさん」に関わる歌を通して、歴史的にあまり語られてくる事のなかった「からゆきさん」の様々な物語を解き明かし、この様々な物語を通して新しい「からゆきさん」の肖像、ライフストーリー、そして歴史解釈のあり方を提示する。「からゆきさん」は、その娼婦としてのマイナスなイメージ、そして帝国日本時代の負の印象を大きく残すため、学問的な課題として、また語り継がれる物語として取り扱われる事はあまりなかった。しかし、その結果「からゆきさん」に関する情報や歴史的知識は非常に限られたものになっており、現在では「からゆきさん」に関する物語は、ほぼ「隠された、また隠すべき歴史」となってしまうている。本研究ではこの「記憶の政治学 (The Politics of Memory)」を問題視し、いままであまり語られる事のなかった「からゆきさん」の様々な物語を「歌」を糸口に展開し、「記憶の政治学」によって隠された「からゆきさん」の記憶を取り戻し、それをもって新しい「からゆきさん」に関する歴史解釈を提示するものである。

## 2. 研究の目的

「からゆきさん」に関する現地での話や、これまでの文献を調査するうちに、語られている「からゆきさん」の話がステレオタイプされ、他の多くの「からゆきさん」の側面が学術的、民族史的、そして芸術の面でも無視されていることを問題視するために、本研究を始めた。この偏った「からゆきさん」に関する記述や記憶を乗り越えるために、本研究では音楽に焦点をあて、今までにない「からゆきさん」像を描き出そうとしたものである。

本研究では、あまり語られることのなかった「からゆきさん」の歴史を解き明かし、それをもって記憶の政治学を批判的に論じ、新しい歴史解釈のあり方を解いてゆく。「からゆきさん」とは19世紀末から20世紀初頭にかけて存在した海外娼婦の総称であり、その多くが島原・天草地方出身の少女たちであった。ほとんどの場合これらの少女達は貧しい農村の出身で、だまされて海外へ売られ、多くの借金を背負いながら娼婦の仕事をしていた。「からゆきさん」は世界各地へ移り住んでいて、極東から上海、東南アジア、インド、そして遠くはマダガスカルにまで売られて移住していった。現在でもマレーシアのクアラルンプールやサンダカン、そしてシンガポールにある日本人墓地には多くの「からゆきさん」が眠っている。今日では、「からゆきさん」の存在そのものが「恥」と考えられ、日本の歴史、また島原・天草の郷土史等で語られることはほとんどない。しかし、これまでの私自身の現地調査や研究から、語られることのなかった「からゆきさん」の物語が残されていることに気づき、これらの研究材料を使い記憶の政治学の問題点を指摘し、新しい「からゆきさん」の肖像を提示したい。特に民族音楽学者として、私は「からゆきさん」の歌について興味を持っており、歌や音楽を包括的に含めた多様な歴史解釈の中にある可能性を追求したいと考えている。音楽は記憶の政治学によって隠された物語を含んでいる事があり、これを糸口として偏った歴史的記憶のあり方を打破し、音楽や踊りをも含めた様々な物語からなる新しい歴史解釈のあり方を示したい。

この研究で問題視する「記憶の政治学」とは、過去の出来事や物語の恣意的な取捨選択であり、この力学によりある出来事は誇大に扱われ、その反面多くの小さな物語は取るに足らないものとされ、忘れ去られてゆく。まさに「からゆきさん」の物語の多くはこの忘れ去られてゆく、もしくは消されてゆく部類に入るもので、日本の歴史や島原・天草の郷土史等では語られることがなかった。では、このような消されてゆく記憶はどのように取り戻してゆけば良いのだろうか？ここでこの研究では音楽の中にある隠された記憶を掘りおこし、それをたどりつつ新たな「からゆきさん」の肖像を解き明かしたい。

この研究で取り扱う「からゆきさん」に関する「記憶の政治学」には二種類ある。一つは「記憶の取捨選択、そして消去」である。19世紀から20世紀にかけての日本の植民地主義において「からゆきさん」の存在は大きなものであった。実際、明治政府は海外へ娼婦を送る事を推奨し、彼女らを娘子軍と呼び海外進出の足がかりとしていた。例えば福沢諭吉も当初は海外へ娼婦を送る事を推奨しており、彼女達が稼いだ外貨によって日本の海外進出は促進されるとしていた。しかし日本の活動が各国で顕著になるにつれ、このような娼婦の存在は海外ではむしろ非難されるものであると日本政府は気づきはじめる。その結果日本政府は、海外娼婦の存在は「恥」であるとし、このような女性達の存在そのものを隠す手だてをすることになる。この記憶の政治学は多くの海外娼婦の存在自体を否定するものとなり、現在でもこのような女性達がいたことが語られる事はあまり好まれない。

私が2016年夏に島原・天草地方で最初に研究調査を行った際には非常な困難がともなった。聞き取り調査をしようにも、ほとんどの人々が「からゆきさん」のような女性の事は知らないし、知っていたとしても話せないと言っていた。これは他の研究者や作家等でも同じ事で、作家の姜信子も島原・天草地方を訪ねたとき「売春婦の事を調べにきたのか！」と追いつ返されたと言っている。しかし、このような状況でも研究方法はあるものであり、私は民族音楽学者として音楽から「からゆきさん」へのアプローチを試みた。全国的にも有名な「島原の子守唄」という曲は、実は「からゆきさん」を歌ったもので、その歌詞には「からゆきさん」がどのように海外へ売られていったのかが隠されている。これを足がかりとして、少しずつ「からゆきさん」の物語を解き明かし、口之津歴史民族資料館にある資料や、「からゆきさん」からの献金で建立された島原市の大師堂での聞き取り調査なども参考に、「からゆきさん」の物語を探ってゆきたい。

### 3. 研究の方法

研究方法としては、フィールドワークが主な手法となった。もちろん、基礎的な研究として国立国会図書館や福岡、長崎、熊本の図書館、各研究機関での文献調査等も行なったが、やはり本研究はフィールドワークで現地を訪れ、どの場に滞在し、聞き取り調査を行い、現地の音楽状況などを詳しく観察するなどの方法が有用である。コロナの影響で、2020年度からフィールドワークが思うように行えなかったことが残念であった。

この研究では、文献調査はもちろんだが、実地調査が大変重要になってくる。島原・天草はもちろん、海外での実地調査も数多くこなしてゆきたい。具体的にはウラジオストク、ニコラエフスク、マレーシア、シンガポール、オーストラリアのケアンズと木曜島などで実地調査を行う予定である。さらにはインドやマダガスカルなどの地域まで「からゆきさん」は進出していたので、可能であればこれらの地域でも調査を行いたい。ここで重要なのは特定の地域に焦点をあて研究を行うのではなく、様々な地域で得られた包括的な記憶を「からゆきさん」の歴史叙述に加えてゆくことである。また私は民俗誌的記録映画の製作に精通しており、博士研究

では博士論文の一部として二つの記録映画（51分と63分）を制作している。この研究でもすでに多くのビデオクリップを撮影しており、今後も撮影は続けてゆき、最終的には「からゆきさん」の民俗誌的記録映画を制作する予定である。これは「からゆきさん」の足跡を視覚的にとらえた貴重な資料となるだろう。このような研究手法によって多角的な「からゆきさん」の記憶を提示し、この研究は偏った恣意的な歴史構築ではなく、包括的な歴史解釈の有意性を説いてゆく。

#### 4．研究成果

研究成果としては、まず多くの国際学会での発表が挙げられる。本研究を始めた2019年以降、International Council for Traditions of Music and Danceでの4度の発表を始め、多くの学会で本研究に関する発表を行なった。また、本研究に関連して台南国立芸術大学、台湾国立師範大学、熊本大学を始め多くの研究機関から招待講演の依頼を受け、発表を行なった。また、本研究に関しての学術出版などもいくつか行なった。代表的なものとして、“Nostalgia in Motion: Transition and Transformation of a Japanese Enka Song in East and Southeast Asia.” “Lullaby, Travel, Nostalgia: Intersectional Soundscapes of Migrant Prostitutes in Southeast Asia.”などが挙げられる。コロナの影響で本研究は大幅な変更を余儀なくされた。しかし、基盤研究Cとして採択されたTransborder Humanityの研究で、本研究をさらに発展させていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Masaya Shishikura	4. 巻 1
2. 論文標題 Lullaby, Travel, Nostalgia: Intersectional Soundscapes of Migrant Prostitutes in Southeast Asia	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Proceedings of the 6th Symposium ICTM Study Group on Performing Arts of Southeast Asia	6. 最初と最後の頁 137-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Masaya Shishikura
2. 発表標題 Linkages of Music around Asia and beyond: Seeking Possibilities of Transborder Research Methods
3. 学会等名 EMI Proseminar, Tainan National University of the Arts（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Masaya Shishikura
2. 発表標題 Beyond Invention and Historical Truth: Performing Ontologies on the Ogasawara Islands
3. 学会等名 46th ICTM World Conference（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Masaya Shishikura
2. 発表標題 Detecting Musical Linkages between Malaysia and Japan
3. 学会等名 Training Programme for Music Teachers, Malaysian Independent Chinese Secondary School（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Masaya Shishikura
2. 発表標題 Lullaby, Travel, Nostalgia: Intersectional Soundscapes of Migrant Prostitutes in Southeast Asia
3. 学会等名 6th Symposium, ICTM Performing Arts of Southeast Asia (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 穴倉正也
2. 発表標題 Musical Voices of "Karayuki-san: Tracing the Neglected Histories and Sentiments
3. 学会等名 熊本大学 Global Education Open Seminar Series (招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------